

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7 年 3 月 14 日

事業所名 障害児通所支援 みによん

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0	0	ブレイルーム、訓練室、更衣室、スヌーズレン室等、適切である。	
	2	職員の配置数は適切である	100	0	0	配置数は適切であり、有資格者を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100	0	0		バリアフリーにはなっているが、スペースを考慮すると重症心身障害のある子の受入れは難しい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100	0	0	提供終了後に、業務の振り返りや課題について話し合う機会を設けている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	0	0		保護者向け評価表を基に、職員間で話し合い改善・検討をしていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100	0	0	事業所に掲示、ホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	0	100		現在は行っていないが、今後前向きに検討していく。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	0	研修に参加し、伝達研修を行っている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	0	保護者の意向と発達課題を踏まえて計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100	0	0	5領域に沿った標準化したアセスメントツールを使用している。	必要に応じて発達検査も行っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0	0	事業計画策定会議を実施している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0	0	固定化されないよう各種療法や行事を取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100	0	0	月間予定表を作成。長期休暇中は、朝からの利用のため外出先等を工夫している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	0	視覚支援や環境調整、課題等、利用者個々に応じた計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0	0	日程表にて、周知・確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100	0	0	支援終了後に、ミーティングを行っている。	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0	0	行動記録のみではなく、職員が対応した結果について記録し、検証・改善に努めている。		
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100	0	0	定期的にモニタリングを実施し、月一回の目標設定・評価も行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	0	ガイドラインに沿った支援を行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100	0	0	担当職員より聞き取りを行い、児童発達支援管理責任者が出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100	0	0	状況に応じて行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100	0	0	現在、医療的ケア児の受入れはない。服薬についてはお薬手帳を提示していただいている。	必要に応じて主治医と連絡体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100	0	0	状況に応じて行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100	0	0	状況に応じて行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100	0	0	障害児通所支援事業所連絡会に参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	100	0		近隣の公園や公共の施設にて交流の機会を設けているが、具体的なものを検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100	0	0		要請があれば、参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0	0	日頃、連絡帳や口頭、SNSにて行っている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	100	0	随時、発達や支援に関する相談を受け付けている。	ペアレントトレーニングを検討する。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100	0	0	変更がある場合は、重要事項説明書変更届にて保護者に説明し、同意をいただいている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	0	0	個別で、必要な助言と支援を行っている。	事業所側から保護者の悩みを引き出せるよう工夫していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	100	0		今後、親子で参加できる行事を企画していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100	0	0	権利擁護委員会を設置し、苦情があった場合は迅速に対応できるよう心掛けている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100	0	0	法人として会報誌を年4回発行している。月間予定表を事前に配布している。	
	35	個人情報に十分注意している	100	0	0	契約者には、個人情報同意書について説明し同意をいただいている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100	0	0	定期的なアンケートを実施、その他連絡帳や送迎時に行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	100	0		高齢者施設訪問を予定していたが、コロナ禍のため中止となった。事業所へ招待する機会も検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100	0	0	各種マニュアルは策定済みである。	変更時は、保護者へ説明をしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100	0	0	月1回避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100	0	0	月1回のアンケート実施。研修に参加した職員からの伝達研修を行っている。	この後も、研修に参加していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100	0	0	重要事項説明書に記載している。実際には、該当者がいなかった。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100	0	0	契約時に、アレルギーの有無について確認している。	必要に応じて、医師の指示書を提出していただく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100	0	0	作成し共有している。ヒヤリハットがあった場合はスパービジョンを行い周知している。	